

# 育成

だより

## 第97号

発行 大刀洗町青少年育成町民会議  
 TEL 77-2670 FAX 77-2720  
 編集 広報委員会



### 平成21年度 少年の主張大会発表者と内容

学 校	学年	氏 名	内 容	氏 名	内 容
大堰 小学校	6年	坂田 聡	野球が教えてくれたこと	重松 郁恵	平和への願い
本郷 小学校	6年	中村 寛志	六の一のじまんをつくり上げるため	辻 美佐	六年二組になれてよかった
大刀洗小学校	6年	棚町 陽堯	今、ぼくにできること	平田 小里	父の仕事から学んだこと
菊池 小学校	6年	毛利 晨	長崎で学んだこと	井手愛日花	信じる言葉
大刀洗中学校	1年	諫山ひかる	考えてみよう、理想のあいさつ		
	2年	柳 知美	今を大切に		
	3年	権藤 亜美	命の大切さ		

### 「会長挨拶」

大刀洗町青少年育成町民会議  
 会長 安丸 国勝

本日、少年の主張大会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。町長の安丸でございます。

昭和六十年に大刀洗町青少年育成町民会議が発足し、今年で二十四年目を迎え、現在、各校区で健全育成のための活動が熱心に取り組みされているところでございます。これもひとえに関係者の皆様のご理解とご尽力の賜物と心より感謝申し上げます次第であります。

さて、この少年の主張大会は、これから大きく成長されます皆さんが日常生活での様々な出会いや、体験を通じた思いを発表することにより、自分の考えを多くの方々へ伝える力をも身につけていただくことと開催しているものです。発表者の皆さんは5分という短い時間のなかで、自分の意見をまとめて発表することになります。どうか自信を持って、元気に堂々と発表していただきたいと思えます。そしてこの大会がすばらしい思い出となりますよう祈念いたします。

そして、私たち大人も、子どもたちの意見にしっかりと耳を傾け、考え方や気持ちを受け止めていきたいと思えます。

最後になりましたが、本大会にあたりご尽力賜りました学校並びに関係者の皆様に心からお礼申し上げ、挨拶いたします。

### 「野球が教えてくれたことを聞いて」

大塚校区 坂田 滋

少年野球を通して、わが子が多くを学んでいる事がわかりました。勝負に勝つために繰り返し練習し、技術を向上させ、それを結果に結び付ける。監督の指示に従い勝負に勝つ。それは簡単な様でもとても難しい。子どもなりに実感している様です。失敗はつきものですが、時に失敗は負けにつき

なおります。自分の失敗がチームに及ぶ事で責任を感じ、落ち込み、涙を流し、辛い思いを度重ね、心折れてしまう事もあるでしょう。その様な状況でも、過去の失敗をただ後悔し諦めるのではなく、何が足りないのか、どうすればいいのか、という前向きな気持ち



ちを持って取り組む姿勢が、良い結果につながる事がわかった様です。何事にも応用し実行していくという、とても大切な考え方に気づいてくれた事は、今後の成長にとってもプラスになるだろうと嬉しく思いました。

### 少年の主張大会

## 「私からのメッセージ」を聞いて

今日、「少年の主張大会」を聴きに行きました。原爆や暗いニュースを報じる現在の社会をテーマに取り上げたり、子ども達の発表とは思えない程しつかりとしたものでした。

一人の小学生は、「大縄をクラス皆で二百回とぶ」という目標を立てて取り組

んだけれど、なかなかとべなくて途中やる気なくなったり、仲が悪くなったりした事。だけど、又話し合って再チャレンジしている事。別の小学生は、夢である保育士を目指している、今は合唱祭のためにピアノの伴奏の練習を頑張つ

### 「主張大会を聴いて」

本郷校区 棚町 千代子

ている事。クラスの一人一人が、自分出来る事をして助け合っている事。二人とも友達を大切にしていることが伝わってきました。目標を持って頑張る姿は素敵です。一生懸命頑張れば、必ずうまくいきます。「これからも頑張つて。」応援していますよ！

### 「主張大会を聴いて」

大刀洗校区育成会 平田 一行

青少年の皆さんが、日頃何を思っているのか、興味をもって聞かせていただきました。『わが町に、こんなに素晴らしい子ども達がいる』、これが私の第一印象です。小・中学生の主張の中で、奉仕の心、友達への思いやり、協調性、勇気、正義感、命の大切さ等、学校・グループ・スポーツで体験したことを一つ一つで体験したことを一つでも心に焼きつけ、自分もそうなりたいと感じたことを、堂々と発表し、それを実行する意欲が伝わってきました。人間関係が希薄になつた現在、

大きな会場で、たくさんの人達が見ている中、堂々と主張する子ども達の姿は、実に立派で本当に感動いたしました。主張された子ども達は、その場に立つまでも切さ等が心に残りました。

その姿、主張からは、子どもとは思えない迫力を感じました。どんな時でもあきらめず、前向きに考え行動する事、相手の気持ちを考える事、心をこめて接する事の大切さ等が心に残りました。

### 「主張大会を聴いて」

菊池小学校 PTA 副会長 末次 由美

真つ直ぐで真剣な子ども達の眼差しからは、大人の私達が改めて学ばなければいけない事が、たくさんあると気付かされました。勇気をもって主張された子ども達に、心から感謝いたします。本当に、ありがとうございました。

又、平和を願う気持ち、あいさつには意味があり、想いがあるという事。家族のあり方や命の大切さ、人としての常識・・・どの主張も、心に響きました。



## 「野球が教えてくれたこと」

大堰小学校 六年 坂田 聡

「野球」それは、ぼくの大好きなもの。そして、いつもぼくに大切なことを教えてくれる。ぼくは、この野球で失敗すれば、その失敗をどうにかする方法を探すことができる。そして、その失敗を成功にかえ、どんどんうまくなれる。それが野球。ぼくが失敗を成功にかえていったのは、こんな試合だった。

夏休み前、忠見ライオンズ旗争奪少年野球大会の試合のことだ。ぼく達は、忠見ライオンズと対戦した。そして、試合は、0対0、おたがいに点をゆずらない。そんな時、打席はぼくでランナー三のいのチャンスだった。ぼくは、ゆつくり打席に立ち、緊張の中かんとくのサインはスクイズ。ピッチャーがセットポジションでかまえ、ふりかぶって投げた。

「コン」  
バットには当てた。しかし、キャッチャーフライ。そして、三のいランナーアウト。おまけに、指をけがして、ピッチャーだったぼくは、投げることができなくなった。この時の試合は、六対五で負けた。なぜ失敗したのか。なぜ成功させることができなかったのか。ぼくは、こうかいでいっぱいだった。そんな時、お父さんが、「ボールをよく見ると、バントはできる。自信を持

て。」と言って、教えてくれた。ぼくは、そうだと思った。あの時は、外角の球で緊張のあまり、当てる瞬間を見ていなかったことを思い出した。ぼくは、原因が分かった。だから、「次は必ず成功させる。」そう心にちかった。

そして時がたち、夏休みが終わった後すぐの県大会初戦、ぼく達の試合がはじまった。大事な一戦目だったから、ちよつと緊張していた。そして、一回から試合は動き、先制点はぼく達だった。ランナー三のいから、ゴロで三のいランナーがつつこんで一点を入れた。でも、相手も負けずに一点取り返してきた。その後、三回もぼく達が一点を取り、まだランナー三のいでワンアウト。そして、打席がぼくにまわってきた。この試合状況は、忠見の時と同じだった。一瞬、あのときの失敗が、まざまざと頭に浮かんできた。しかもこの試合、これまで一回も打ってなかったので、全く自信がなかった。しかし、同じ失敗はくり返したくない。そう強く思い、打席に立った。そんな中、かんとくのサインはスクイズ。ぼくは当然だと思った。なぜなら、二対一の状況。あと一点あれば、楽に戦うことができるからである。ピッチャー、セットポジション。ふりかぶって第一球。投げた。

「コン」

大きくはずされた。しかし、ボールを見て飛びバントしたので、前にボールが転がった。三のいランナーは、ホームにもどり一点。ぼくも、一生懸命走ってセーフになった。ぼくは、やったと思った。前の失敗で不安だった気持ちが一気にふきとんだ。けつきよく、この試合は六対一で勝つことができた。

ぼくの失敗で試合に負け、くやしい思い



## 「平和への願い」

大堰小学校 六年 重松 郁恵

みなさんは、「平和」という言葉を知っていますか。ふだん、テレビやラジオで耳にしている言葉ですが、平和とはいったいどういうことなのでしょう。いっしょに考えてみましょう。

私達六年生は、「ヒロシマのうた」という国語の学習を通して、作者の「今西祐行」さんが伝えたいことを読み取りました。その方法として「ヒロ子」という女の子の会話文や行動文を解釈図に表していました。解釈図を作っているうちに、ヒロ子の気持ちを表した叙述や、戦争について描かれている叙述から、戦争のおそろしき、ヒロ子の気持ちや伝わってきた本当に悲しくなりました。

とくに私は、練兵場の全体が黒々とした死人と、動けない人のうめき声でうずまっていたこと。これが、実際に六十四年前の日本であつただなんて、信じられませんでした。

をした。しかし、この失敗をした試合から、ぼくは、あきらめないで立ち上がり、失敗したことをふり返り、いけなかったことをなおしていくことが成功へとつながるということを学んだ。野球が、ぼくに教えてくれたことだ。しかし、野球だけでは、これからは、どんな時でも立ち上がり、あきらめない人間になつていきたい。ぼくは、そう強く思っている。

した。そして、解釈図を六年一組のみんなと交流していくうちに、作者が私達に伝えたいことが、二つあることを読み取ることができました。

一つ目は、やっぱり戦争のおそろしき、苦しさです。みんなで交流していくうちに、戦争は、何年たつた今でも人を苦しめ、人や家族とのつながりをこわし、戦争のおそろしき苦しさは、いつまでも心のきずとなつて、忘れられないものとなつていくことが分かりました。

二つ目は、親子の愛情です。戦争でおそろしいことや苦しいことがあつた中でも、ヒロ子ちゃんや義理のお母さんは、本当の子のように想っている所と、逆に戦争のおそろしき苦しさを胸に、前向きに進んでいくことが分かりました。

また私は、夏休みに沖繩へ行つて、もう一度戦争のことについてくわしく調べてい

きました。実際に摩文仁の丘や、沖縄県平和祈念資料館へ行き、見たり聞いたりさわったりして、あらためて戦争のおそろしさ、悲惨さを実感しました。その中でも、「沖縄戦」のことや、「対馬丸」のことが胸にぐつとききました。多くの人々が自決、また敵の軍に殺された沖縄戦、たくさんの子ども達や大人の希望が、対馬丸といっしょにしずんでなくなってしまった話を聞くと、とても胸がいたみました。手元にわたされたワークシートに、こんなことが書いてありました。

「自決した人の気持ちは、どんなものだったでしょう。」

「自決していった人達や、対馬丸に乗った



## 「六の」の自慢をつくり上げるために

本郷小学校 六年 中村 寛志

ぼく達六年生は、小学校生活最後の一年を迎えました。ぼく達六年生は、学校に足あとを残すことを、そして最高の思い出をつくることを目標にしています。

第三回六の一学級会で、学級全員で大なわを二百回とぶ取り組みをすることを決めました。ぼく達六の一の良さは、みんなが一つのことを協力して取り組めることです。他の学級に自慢できるようなことを達成させることで、六の一の自信にし、もともと全校に働きかけられるようにするために、大なわ二百回に取り組みを決めました。

人々は、いったいどんな気持ちだったのだろう。」

そう思うと、ますます胸がいたみ、結局何も書けませんでした。

また、もう一つのワークシートには、「平和にくらすためには、どうすればいいのでしょうか。」

と書いてありました。私はしばらく考えましたが、平和を続けていくというのを思いつきました。おたがいを分かり合って、平和を願っていくこの心を持つことで、戦争のない平和な世の中にしていくことが大切なのではないのでしょうか。

なぜなら、平和を守っていくのは、私達だからです。

なくなりました。そして、「ぼくも、うまくとべるようになりたい」と思うようになりました。

取り組みの最初は、みんな慣れていないのか、二十回もとぶことができませんでした。ぼく自身も久しぶりなので、友達の後に続いてなわに入ることができませんでした。入ることができても、とぶタイミングが分からずに、ひっかかることがたくさんありました。

毎日練習しても、五十回もとぶことができません。ひっかかるたびに「ああ、残念だ」と、悔しがりました。

でも、不思議と「したくない」と思ったことはありません。それは、みんなが二百回とべたら、すごい自慢になるし、何より、最高の思い出になるからです。

毎日練習を続けていると、友達の数々後が続いて中に入れるようになりました。

次に、ひっかからずにとべるようになりたいと思うようになりました。こちらも練習を続けているうちに、とべるようになりました。苦手だったことが、一つできるようになると、口では言い表せないほどうれしくなりました。そして、それが自信になっていきました。

しかし、相変わらずとぶ回数が増えませんでした。回数が二十回、三十回と続き、「今度こそは、とべそうだ。」と期待しても、失敗してしまうことが続きました。悔しい気持ちからか、とべなかつた人をみんな責めてしまうことがありました。そんなことが続き、最初のやる気が、だんだん無くな

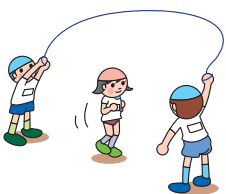
っていきました。

それで、第四回学級会で、「どうしたら二百回とぶことができるか。」という議題で話し合いをしました。そこで、ぼく達の悪いことを出し合いました。その時に、とべなくて責められた人が、つらい気持ちを泣きながら発表してくれました。学級の自慢をつくるのが目標だったのに、いつの間にか道を外れていたことに、ぼく達は気づきました。

学級会では、友達を責める言葉の代わりに、「ドンマイ」とはげまし合おうと決めました。その日の昼休みに、集まれる人だけ集まって、大なわをしました。その時に、二百回以上とぶことができました。

ぼくは、百回越えたあたりから、ものすごく緊張し、「ぼくが引つかるんじゃないか」と、怖くなりました。ふるえる心をおさえつけ、みんなと声を合わせて、とぶ回数を数えました。とぶことができた時は、「やったあ。本当に二百回とぶことができました。」と飛び上がって喜びました。今度は、全員で二百回とんで、本当の六の一の自慢をつくり上げたいと思いました。

大なわで二百回は、難しいことですが、ぼくたち六の一なら絶対できるはずですよ。そして、みんなが最高の思い出をつくりたいです。





## 「六年二組になれてよかった」

本郷小学校 六年 辻 美佐

私の夢は、保育園に入った時から保育士になることでした。小さい子はとてもかわいくて、わたしは、小さい子を見たらつい遊びたくなります。私の親戚には保育士の仕事をしている人がいます。その人は、ピアノもひけてやさしくて、とてもいい保育士さんだなあと尊敬しています。その人の影響もあり、私は保育士になろうと思いましたが、

今のクラスの五年生の時の学級目標は、「かがやけ五の二の絆」でした。しかし、最初はクラスのみんなが静かにしようと思わず、先生がいないとすぐに言い合ったりするクラスでした。そして、いっしょになにかをやりとげようという気持ちもありませんでした。だから、学級目標を達成するために絆が深まるような取り組みを続けていました。絆アップ学級会を開いて集会をしたり、たくさん遊んだりしました。

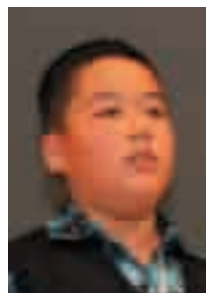
そして、私たちは六年生に進級しました。小学校生活最後の一年だから、みんなで学級目標を「ザ、ラストチャレンジ」悔いのない一年」に決めました。悔いのない一年にするために、一つ一つの行事に一生懸命に取り組みました。運動会では、気をぬかずに必死でがんばりました。最初は、全然できなかった組体操も全員でやりとげられ、必死になればできないことはない

ということを学びました。水泳記録会では、全員がベストタイムに向かって泳ぎました。より早く、きれいに泳げるようになるために、学校が終わっても泳げるだけ泳ぎました。必死で応援の練習もしました。泳ぎ終わるとタイムがちこんでいて、応援もがんばりたいと思いました。一つ一つが最後の大切な思い出で、こんなに絆の深いクラスでよかったなあと思います。

今私たちは、十二月の筑後地区音楽祭に向けて練習しています。私たちは歌が苦手な、去年の六年生は音楽祭には六年生だけで出たかったのに、「一緒に練習がんばろう。」と言ってくれました。そんな六年生を、私たちは今でも尊敬しています。そして、今年の音楽祭は、五年生と出ます。今年、六年生だけで音楽祭に出るのか、五年生と出るのが話し合いました。五年生と出た方が思い出に残ると思うので、一緒に音楽祭に出ようということになりました。

今の六年二組には、いいところがたくさんあります。まず、授業中、男女関係なく勉強を教え合います。休み時間には、女の子も男子とサッカーをして、うるさいくらいもあり、本当に楽しいクラスです。そして、六年二組は、一人の人がいたら声をかけることのできる本当に優しいクラスです。

私は、保育士になったらそんな自慢できるようなクラスをつくりたいです。これから、その夢をかなえるために、ピアノや歌に一生懸命取り組みたいです。そして、みんなから信頼されて、たよられるような保育士を目指したいです。そのために、まわりを見て人の気持ちを考えた行動をしたり、自分の行動をふりかえったりしていきたいです。そして、子どもたちには、「必死になれば、なんでもできる。自分に負けては



## 「今、ぼくはできるよ」

大刀洗小学校 六年 棚町 陽亮

今年の夏休み、ぼくは「社会を明るくする運動」についての作文を書きました。社会を明るくすることは、どんなことだろう。今、ぼくにできることは、何があるのだろうかと考えてみました。

「日本は治安がわるくなつたね。」テレビのニュースを見ていた母が、つぶやいていました。母の言うとおり、毎日のように殺人、コンビニ強盗、インターネットが関連したニュースが報じられ、その数は、年々増え続けているように思います。「明るいニュースは、ないのかな。」と思いき、テレビのニュースや新聞記事をくわしく調べることにしました。

すると、暗い出来事ばかりではなく、自分たちが今できる活動を、様々な方法で取り組んでいる人たちがたくさんいたのです。

いけない」という六年間で学んだことを伝えていきたいです。

今、私はこんなにやさしくて、とてもいいクラスになれて本当に良かったと思っています。このクラスになれたから、私の保育士への夢は、いつそう強くなりました。卒業まであとわずかです。六の二のこの仲間、私にとって一生大切にしたい仲間です。六年二組でいられる残りの学校生活を、一日一日大切にすごしていきたいです。

特にに残った二つの記事を紹介します。先ず一つ目は、筑後川花火大会の翌日に行われた、筑後川河川敷のゴミ拾いの話です。

筑後川で行われる花火大会は、大勢の人が楽しみにしている恒例の行事です。しかし、花火大会後のゴミの量も、ものすごく多さだと聞きました。そこで、毎年、地域の人たちが清掃活動を行っているそうです。今年、雨にもかかわらず、朝の五時という早い時間から、地域の中学生、ボランティア、久留米市の職員など総勢二一〇〇名の方が、なんと四・四トンものゴミを集め、筑後川河川敷を見事に美しくされたということでした。

「九州最大の筑後川の環境を守りたい。」「伝統ある筑後川花火大会をずっと守って

いきたい。」という、地域のみなさんの筑後川や花火大会への思いを強く感じました。

次に二つ目は、母のふるさと大牟田のお祭り「大蛇山」の話です。

ぼくは、大蛇山のお祭りを見たことは、まだありませんが、大蛇の大きく見開いた目と口の恐ろしいほどの迫力、口からの激しい火花、もうもうと立ち上がる煙など、大蛇山が町の中心街を歩く姿の勇壮さは、見る人すべてに感動を与えるそうです。

この大蛇山のお祭りは、世の中がどんなに不景気でも、昔ながらのお祭りを絶やさず受け継いでいくことで、これからも明るく、元気に生きていこう、という願いが込められているのではないかと思います。

この二つの記事の他にも、ぼくたちが修学旅行で訪れた長崎市内の高校生が、核兵器廃絶を求める署名をスイスのジュネーブまで持って行ったことも心に残りました。

終戦から今年で六十四年、被爆地の人たちが世界平和を願う気持ちは、とてもとても大きくて深いものだと思います。

では、ぼくたちの大刀洗小学校はどうでしょう。大刀洗小学校では、「あつたか言葉」を増やし、「とげとげ言葉」をなくしていこうと児童会を中心に何度も話し合いをしています。この取り組みを全校で始めてから、周りの人を思いやる気持ちが強くなり、地域の見守り隊のみなさんへの感謝の気持ちも大きくなったような気がします。「あつたか言葉」をふやしていくこと、

これは、大刀洗小学校という社会を明るく楽しいものにする大切なことではないでし

ようか。

「社会を明るくする運動」とは、決して大きなことではなく、どんなに小さなことでもいいから、一人一人が、みんなのために何かをしようと思えば立つことから始められるのだと思います。その小さな一つ一つが集まって「運動」という大きな形になるのは、とてもすばらしいことだと思います。

ぼくは、将来何になりたいか、まだ決まっています。でも、どんな形でもいいから社会を明るくするための一員になりたいと考えています。

今、ぼくにできること、それは、生活の中で気づき、考え、行動できる勇気を持つことだと思います。

まず、一步を踏み出す勇気をもって、自分の心を自分で育てていきたいと思っています。



# 「父の仕事から学んだこと」

大刀洗小学校 六年 平田 小里

みなさんは、お菓子といえは、どんなお菓子を思い浮かべますか。

私が持っているこのお菓子は、私の父の勤める会社で作られた、一番人気のパリシュー・シュークリームです。とてもおいしくて、私も大好きです。

私の父は、ミューゼ・ド・モーツアルトというお菓子の会社に勤め、お菓子やケーキを売る仕事をしています。

ある日、母と買い物をしていたときに、父が勤める会社のケーキ屋さんを見つけました。ガラスのショーケースには、たくさん、いろいろな細工が施されたケーキが所狭しと並んでいました。

「おいしそうなケーキが、たくさん並んでいるけれど、このケーキは、どこで作られているのだろう。」と、私はケーキがどこで、どのように作られているのか興味を持ちました。

そんな時、国語の学習で依頼の手紙を書くことになりました。私は、父の会社に、どの種類のケーキが人気があるのか、どの種類のケーキが一番多く作っているのかをたずねることに決めました。

そのときは、ただ興味をもったことをたずねてみたい、もし何か資料があれば教えてもらいたいな、でも忙しいから、返事は来ないかもしれないな、という気持ちでし

た。

しかし、手紙を出してから約一週間、父から教えてもらった工場の工場長さんから返事が届きました。

私は、手紙の返事が返ってくるのかとても不安でしたが、返事が来たとしても、パソコンで書かれた短い文章だろうと想像していました。ところが、返ってきた手紙は、手書きで、一つ一つの質問にとてもくわしく答えが書いてありました。忙しいはずなのに、一つ一つ、ていねいに書いて下さったのだと思うと、とても、うれしくなりました。工場長さんの手紙には、一番の人気商品は、初めに紹介したパリシューであること、一番多く出荷しているケーキは、いちごのショートケーキであることなどが、小学生の私に分かりやすいようにイラストを入れたりしてかかれていました。クイズのようにたずねてみたり、本当に読んでいくうちに工場長さんの優しいような顔が目前に浮かんでくるような気がしました。

そして、『また聞きたいことがあります。見学にも来て下さい。これからは、おいしいケーキを作っていきますので、よろしくお願います。小里さんががんばって下さい。』と書いてありました。

父の会社は、大きな会社ではありません

が、心のこもったケーキを作ったり、一つ一つの小さな質問にも優しく答えてくれる、とても温かい会社なんだなあと思いました。

心のこもった、一つ一つを大切に作られたケーキを、父をはじめ、会社の人たちはみんな自信を持ってお店のショーケースに並べているんだと思います。

父の仕事から学んだこと、それは、どんな小さなことでも、だれに対しても、心を込めて、温かく接することの大切さです。たった一つのケーキ。このケーキには、



## 「長崎で学んだこと」

菊池小学校 六年 毛利 晨

ぼくは、十月十五日と十六日の二日間、長崎に修学旅行に行ってきました。長崎で、僕は二人の人の生き方に多くのことを学びました。

一人は、永井隆博士です。永井博士は、長崎大学医学部の医師をしているときに被爆しました。そして、原爆が発する放射能のために白血病にかかりました。永井博士は、白血病に苦しみながらも、被爆者の治療を最優先して続け、多くの命を救いました。その後、白血病がひどくなり、つい

一九五一年その生涯を閉じました。ぼくは、自分も重い病気になってつらいのに、周りで苦しむ人の治療を優先した永井博士の姿に、使命感の強さを感じました。そして、もう一人は、谷口すみてるさん

たくさんの人たちの思いが込められているのです。お客さんの「おいしいよ。」の一言に支えられ、それぞれの役割に自信と責任を持って、仕事に取り組んでおられるのです。

私も将来、自分の進むべき道を決めるときがくると思います。その時に、私も父が勤める会社のように、だれに対しても温かく接することを大事にしている仕事を選びたいと思います。

父の仕事から学んだことは、これからの生活に活かしていきたいと思っています。

です。谷口さんは、十六歳のとき、郵便配達の仕事の途中、爆心地から一・八kmのところまで被爆しました。自転車ごと吹き飛ばされ、三千℃とも四千℃とも言われる原

爆の熱線によって、背中に大やけどを負いました。そのため病院では、一年九ヶ月の間、うつぶせのまま過ごすことになりました。そして、原爆で傷ついた体を治すために、谷口さんは、これまで二十四回もの手術とたたかっただけで済みました。ぼくには、想像もできない地獄の日々だと思いました。

今年で、谷口さんは八十歳になられます。そして、自分と同じように被爆したたくさんの人とその家族の人々のために、今も世界に向けて、核兵器廃絶をうたったえ続ける姿勢に感動しました。

谷口さんのお話の中で一番心に残ったのは、講話の最後の「戦争がないのが平和でしようか」という言葉です。確かに、ぼくの身の回りにはもちろん、日本国内のどこを見ても、戦争はあつていません。しかし、谷口さんのこの言葉で、戦争は、人が「幸せに生きたい」という願いをうばいさるもの、ということを感じました。

「幸せに生きたい」という、人としての当たり前の願いをうばうものは、戦争だけではありません。例えば、「いじめ」がそうです。ぼくたちの周りに、「いじめ」で苦しんでいる人はいない、とは言いきれません。これまでの自分を振り返ると、軽い気持ちで人が傷つく事を言ったり、遊び半分で見えたり、谷口さんの話を聞いて、人の心を傷つけるのは戦争だけではない、ということを感じました。

今回の修学旅行を通して、永井博士と谷



## 「信じる言葉」

菊池小学校 六年 井手 愛日花

私は、三年生からミニバスケットをしています。五年生の頃からレギュラーになりました。ミニバスケットは、夏と秋に大きな大会があります。私たちは今年、優勝をねらっていました。たくさん練習もしました。

いよいよ、地区予選の準決勝が始まりま

口さんの生き方や考え方に会うことができました。また、平和祈念像の説明の中に、「この像は、人々の募金で造られました。」というものがありません。たくさんの人が募金をしたんだなあ、と思いました。それだけ多くの人が、戦争や原爆で亡くなった人々や家族を亡くした人々の「いたみ」を、自分の「いたみ」としてとらえ、「戦争のない世界」を願っていることが、強く伝わってきました。

ぼくは、永井博士や谷口さんと同じようなことはできないかもしれませんが、近くにならなくてもいい、きずついたりしている人がいたら、そういう人の側に立って、いっしょにがんばっていきたいと思います。こういう気持ちを強くしてくれた修学旅行でした。

これで、ぼくの主張を終わります。ありがとうございました。

した。私たちのチームは、ライバルとの準決勝でした。試合が始まりました。前半は、五ゴール差もありました。三分の休憩で少しあきらめた時でした。

「おまえたちならできる」と、作戦板に向かって、監督が言ってくれました。そして、チームの気持ちが勝つという気持ちに

変わりました。

「いよいよ、最後の勝ち負けを決める後半が始まりました。みんな一生懸命で、ゴールをめざしてがんばりました。私もボールを追って必死で走りました。みんながんばった結果、三ゴール差の逆転勝ちに終わりました。」

監督が言ってくれた一言で、気持ちが変わって勝ったと思いました。自分たちを信じてくれる人たちがいたから、こんな良い成績を残せたと思いました。

チームメイト同士でも、その人がシュートをきめてくれるという気持ちでパスをするので、その人を信じるのが大切だと思います。

試合中、シュートがはいると、「ナイス、シュート」と声をかけたり、ほめたりしてあげます。逆に、シュートが入らなくても、「ドンマイ」と、はげます声をかけています。フアールをされて、チームメイトの一人が、フリースローでシュートをうつ時、うしろからかたをたたいて、「入るよ」と、声をかけてあげます。そうすると、おちついてシュートがうてると思います。

私は、人と人が声をかけ合い、信じていくことがなければならぬと思いました。学校でも、水泳の時、私は五十メートルが泳げませんでした。でも先生が、「みんな絶対に五十メートル行けるよ」と言って、一人一人指導してくれました。そして、ほとんどが五十メートル泳ぐことができました。

私は、相手を信じる言葉は、相手の心を

動かす言葉なので、大切だと思いました。これからの社会を作るには、一人一人信じて、心を一つにまとめ、良い社会を作っていく方がいいと思います。

今度は、自分が相手を信じて、言うことができるようになりたいです。友だちでも信じ合えば、必ずなんでもうちあけられる

「あいさつ」って何だろう。みなさんは何だと思えますか。あいさつは、相手の事を知ることができる、一つの方法だと私は思います。例えば、私が友達に、



### 「考えてみよう、理想のあいさつ」 大刀洗中学校 一年 諫山ひかる

「おはよう」と、あいさつをしたとします。すると、いろんな人からいろんなあいさつが返ってきます。みんな一人一人違う人間だから、あいさつだってみんな違って当たり前だと思います。はるかすうに小さな声で、「おはよう」と言ってくれる人もいれば、大きな声で「おはよう」と言ってくれる人もいます。それは、人それぞれいいと思います。しかし、あいさつは必ず返ってくる限りません。

私が通る通学路では、いつもたくさんの地域の方々にお会いします。私は、必ずあいさつをするように心がけています。すると、地域の方からも「いってらっしゃい」とか、「気をつけてね」など、いろんな声

友だちになれ、自分のなやみや、こまったことを相談できるので、一人で苦しまなくてすむと思いました。

自分たちのチームでも、信頼感を深め一つにして、たとえ失敗しても声をかけ、安心してもらえるように、これからもがんばっていききたいと思っています。

が返ってきます。それが私はとてもうれしいです。あいさつをしたら、返すのが人としての常識だと思います。しかし、あいさつをしても、返ってこない時もあります。そんな時は、「なんであいさつを返さないんだろう」、「もしかして、あいさつは迷惑なのか」と悲しくなります。

さて、みなさんは、あいさつをする側の気持ちを考えて事はありますか。あいさつの裏には、いろんな思いがあることを忘れてはいけません。「おはよう」にも、「こんにちは」にも、ちゃんとした意味があると私は思います。

それに、日本にはすばらしいあいさつがあることを忘れてはいけません。それは、食事の前に言う「いただきます」、食事の後に言う「ごちそう様でした」というあいさつにも意味があるのです。私達が食事をしただけなのは、食事をつくってくれる人がいるからです。また食事には、たくさん

の命が並んでいます。だから、感謝の気持ちをこの言葉にあらわしているのだと思います。この様に、あいさつには意味があり、思いがあるので。

さあ、みなさん。自分のあいさつを見直してみてください。どんな言葉のあいさつだろうと、意味や思いがあるのに変わりはありません。一回一回思いをこめて、あいさつをしてみてください。自分から先にあいさつをしてみてください。とても気持ちがいいですよ。そして、今よりも心のこもったあいさつができるはずです。

これからの私は、三つの事を大切にしていきたいと思っています。一つは、相手より先にあいさつをすることです。二つ目は、一つ一つに心をこめること。三つ目は、自分の思いをあいさつにこめることです。最初は、全部守ることは難しいと思うけど、確実にできる様になっていきたいです。

「あいさつには、一つ二つ意味がある。」この事を、もう一度みんなが考えて、あいさつの大切さに気づいてほしいです。世界中のみんなが気持ちよくあいさつができるように、私もあいさつをしていきたいです。

さあ、みなさんも今までのあいさつを見直してみてもいいかがでしょうか。







## 「今を大切に」

大刀洗中学校 二年 柳 知美

みなさんは今、何にでも一生懸命に取り組むことができていますか。私は、「何にでも」一生懸命ではありませんでした。

そう気づいたのは、今年の体育祭があつてからです。今年の体育祭のスローガンは、『輝け青春〜一人一人が大刀洗の宝〜』でした。全校生徒が一丸となり、一瞬一瞬に全力を出しきり、輝いた青春を感じてほしい、という願いからつくられたそうです。このスローガンを達成するためには、練習の時から一人一人が全力で取り組むことだと、実行委員長は言っていました。

でも練習では、最初、そんな風にはできませんでした。まず行われたのが、ブロックごとの応援練習でした。私は黄色ブロックで、全体的に声も小さく、一人一人が精一杯声を出す雰囲気ではありませんでした。「このままではいけない。」と思いながらも、私は「他の人も出してないから、出さなくてもいいや。」と周りに流され、人まかせにしていました。そんな時、近くにいた友達が「うちらだけでも声出そうや。」と言ひ出し、その言葉におされ、私は友達と一緒にできるだけの声を出しました。すると、私達の周りの人達の声も大きくなり、明るくにぎやかな雰囲気になりました。あ

終わっていたのかもしれない。一人が変ると回りも変わるのです。たった一人であつても、その影響力は大きいと思います。

また、声を出す事はとても楽しく、気持ち

を明るくすると思ひました。そして、どう

せ同じ時間なら、今の力を精一杯出し、思

い出になるような時間にした、と思うよ

うになりました。

そして当日、一瞬一瞬を楽しもうと、ど

の競技も全力で取り組まひました。午前中は

100m走や学年競技、棒引き、応援披露があ

りました。中でも印象に残っているのが、

学年競技の百足リレーと応援披露です。百

足リレーは、クラスで男女に分かれ、足並

みをそろえ、速さをきそう競技で、クラス

の団結力がためされました。私のクラスは、

とにかくかけ声を大きくし、前へ進んでい

きました。途中で転び、結果は四位でした

が、みんなの顔には笑顔があり、「やりき

った」と書いてあるようでした。応援披露

では、黄色ブロックははじけたように、大

きな声で、今、その時を楽しんでいるよう

でした。結果、黄色ブロックの応援が一番

良かったと言われまひました。みんなで声を出

し、楽しむ事ができて、良かったとも言わ

れ、まさに、「二百一鳥」だと思ひました。

午後は部活動紹介、騎馬戦、男女混合リレ

ーなどがあり、更に盛り上がりまひました。そ

して、最後の成績発表では、黄色ブロックは見事、総合優勝を勝ちとることができま

した。

体育祭では、協力することの大切さ、楽しさ、そして何にでも一生懸命な姿勢を学

びまひました。また、今までに、周りに流され

たり、やりたくない事には手を抜いたりし

ていた事に気づきまひました。体育祭を通して、

どうせやるなら、何にでも最大限の力でや

る。



## 「命の大切さ」

大刀洗中学校 三年 権藤 亜美

今年の三月十七日、給食室で委員会の仕事を

している私は、調理員さんから呼び出

され、急遽教室へもどるよう言われまひました。

その時に、おじいちゃんの命が危ない！と

いうことが、私には分かりまひました。

一月頃から、ずっと入院していたおじい

ちゃん体調が悪化して、もう危ないとい

うことでした。家に帰り、仕事に行つてい

るお母さんの帰りを待ち、おじいちゃん

入院している病院へと向かひました。一時

間程の長い道のりを経て柳川の病院に着き、

指定された病室へと行くと、ベッドに寝て

いるおじいちゃんの姿がありました。その

時のおじいちゃんは、喋りかけても手に触

れても全く反応のない植物人間のようなも

のでした。でも、心臓の動きをあらわす心

電図という機械は、何事もないうごいて

たので、それでもまだおじいちゃんは生き

ているんだなと思ひました。

「命はもう長くない、今日中に・・・」

とお医者さんも言つていたのを聞いて、と

りあえず家に帰りました。その時に、もう

生きているおじいちゃんを見るのは最期だ

ろうと思ひ、みんなで『さよなら』と言ひ、

病院を出まひました。家へ帰つてい

る途中、車

の中で電話により、訃報を聞きまひました。

次の日の朝、その時流行つていた映画『お

くりびと』にも出てくる納棺師と言う人

ちに、おじいちゃんの体を清めてもらひま

した。その人たちは、おじいちゃんの体を

シャワーで洗つたり、タオルでふいたり、

お化粧もしたりしてまひました。死んだ人

の口紅をしたり、どうしてここまです

るのだらうと思ひました。でも、そ

の訳はすぐに分かり、亡くなつた人の体を

清めて、綺麗な体で天国に送るためだらう

なと思いました。その時に、おじいちゃん  
の顔をさわると、とても冷たく血がよっ  
てなくて、やっぱり死んでいるんだと思  
いました。その日に葬儀場へ行き、お通夜  
をし、次の日にお葬式をしました。七十九  
年間生きただけあって、参列者がたくさん  
いました。

その日の昼から火葬場へと行き、最期の  
お別れをし、おじいちゃんは釜の中へと入  
って行きました。

それから、偶におばあちゃんちに行くこ  
とがありますが、未だにおじいちゃんを探  
してしまっています。おじいちゃんがい  
なくなつたことを、今は不思議に思いま  
す。

一緒に住んでいなかったおじいちゃん  
さへ、今思えば、大きな存在だと思  
います。一人の人間が生まれたり、亡くな  
つたりすることで、たくさんの方が関わり、  
喜び悲しむことが分かりました。

おじいちゃんが亡くなったことは、私に  
とって命の大切さを学ぶ大きな出来事  
でした。

これから、人との関わりを大切にして生  
きていきたいなと思いました。



## ふるさとを離れて 熊本で頑張っています

坂口 美鈴(旧姓 池田)

故郷大刀洗を離れて十三  
年が経ち、私は今、熊本市  
で生活しています。

熊本といっても、高速を  
使えば一時間で帰省できる  
ので、地元の近くにいる感  
覚です。

熊本の観光名所といえは  
熊本城。本丸御殿の復元完  
成と築城四百年を迎え、大  
変賑わっています。熊本城  
は、籠城に強い城としても  
有名で、壁や畳など食べら  
れるように建築されたと言  
われています。

また、城主加藤清正(地  
元の方は、清正公と呼びま  
す)は、治水や新田開発な  
どに力を入れ、国を豊かに  
したこともあり、今なお地  
元では人気の高い武将です。  
大刀洗の菊池武光といった  
ところでしょうか。

普段生活している中で、  
熊本でよかったと思うこと  
は、「水」がおいしいこと  
です。熊本市は、全市民の



熊本城の写真

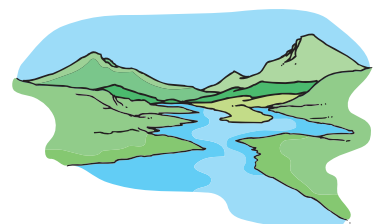


水前寺公園での家族写真

生活水を地下水だけで賄っ  
ている、全国でも珍しい都  
市です。水道の蛇口からミ  
ネラルウォーターが出てく  
るのは、熊本の自慢です。  
大刀洗に住んでいた時間  
よりも、熊本でのそれが長く  
なつても、なかなか熊本県  
民にはなれないものです。

某番組「秘密のケンミンS  
HOW」を見ると、つい福  
岡県代表のつもりで見え  
まいます。郷土愛とは怖も  
のです。

「郷に入つては郷に従え」  
というけれど、これからも  
大刀洗弁をこよなく愛し、  
大刀洗の友人たちを大切に  
していきたいと思えます。  
追伸、私の友人たちへ。  
また、いつもの様に集ま  
つて、ワイワイおしゃべり  
しましょう！



# 学校から地域へ

## 「地域の歴史を学んで」

菊池小学校 水町 康子

菊池小学校に来て三年目になります。この間、特に社会科や総合の時間に、大刀洗の歴史を学ぶ機会が何度もありました。

その一つ目は、床島堰についてです。江戸時代、水不足の荒地であったこの地を売り豊かな水田に変えるため、五人の庄屋をはじめとする多くの人々の努力があり、現在の緑広がる大刀洗があることを学びました。

町のバスで、大堰神社や床島堰を見学し、土や石を運び出した水縄山を背景に、約三百年前の先人の姿を思い描く事ができました。二つ目は、大刀洗飛行場建設と空襲についてです。大正五年に始まった建設工事は、飛行学校、航空廠、航空機製作所の設置等昭和まで続き、東洋一の規模となっていました。この飛行基地を壊滅的に破壊され、千人以上の犠牲者を出したのが、大刀洗空襲です。飛

# 「学校から地域へ」の掲載経緯

① 八十号 大刀洗中学校 坂本 校長

② 八一号 大刀洗小学校 加藤 廣子

③ 八二号 菊池小学校 白水 校長

④ 八三号 大堰小学校 佐藤知恵子

⑤ 八四号 本郷小学校 佐々木智子

⑥ 八五号 大刀洗中学校 松枝 教頭

⑦ 八六号 大刀洗小学校 野田 美紀

⑧ 八七号 菊池小学校 大迫喜美子

⑨ 八八号 大堰小学校 末永 朋枝

⑩ 八九号 本郷小学校 高山 三好

⑪ 九十号 大刀洗中学校 原 裕子

⑫ 九一号 大刀洗小学校 筒井 校長

⑬ 九二号 菊池小学校 柴田 教頭

⑭ 九三号 大堰小学校 平田 恵美

⑮ 九四号 本郷小学校 坪井 幸二

⑯ 九五号 大刀洗中学校 小島 章稔

⑰ 九六号 大刀洗小学校 酒井 教頭

# 保育園からこんにちは

大堰保育園 園長 渡辺 澄子

広々とした田園の中に、オレンジとピンクの鮮やかな建物が大堰保育園。

自然豊かな大堰ではあります。園児数が年々減少している昨今、少しさみしい思いをしています。でも、子ども達は広い園庭で、伸び伸びと活動し、元気一杯です。『大きな声で全力尽くして、協力する』を目標に、挨拶や返事等、朝の集合時に、耳納連山に向かって、お腹から大きな声を出しています。とても気持ちのいいものですよ。

大堰保育園の良さと言えば、やはり、地域の方に育てられている、見守られているという事ででしょうか。菅野のポピー見学に始まり、そら豆・トウモロコシ・じやが芋・さつま芋等の収穫体験やミニデーに声をかけて戴き、おじいちゃん・おばあちゃんとの触れ合いを持つことで、お年寄りの方への親しみや思いやりも自

然と芽生える等、園内だけでなく、色々な所で、活動できる場を提供してもらっています。

私も園長としてやっと二年目を迎え、まだまだ保育士としての気分が抜けないのですが、子ども達と一緒に遊んだり、関わったりし

ていくのが、とても楽しい毎日です。又、少しでも地域の皆様から愛され、保護者の皆様のニーズに応えられ、利用しやすい保育園一体となって、楽しい保育園づくりを目指しています。



### 『子どもの居場所づくりフォーラム』を聴いて ～大堰アンビシヤス広場が事例報告～

地域活動指導員 平田 むつみ

去る十月十八日、福岡市立ルガーラホールで『子どもの居場所づくりフォーラム』が開催された。福岡県からは、「つやぎきアンビシヤス広場」と大刀洗町の「大堰アンビシヤス広場」四ヶ所啓二氏による事例報告が行われた。また、長野県の「小布施子ども教室」、宮崎県の「五ヶ瀬風の子自然学校」など県外からの参加もあり、幅の広い事例報告となった。その後、福岡県アンビシヤス運動推進委員会委員長の横山正幸氏をコーディネーターに、子どもの望ましい居場所づくりと、その手立てについて、報告者間で熱い議論が繰り広げられた。

去る十月十八日、福岡市アンビシヤス広場は、この補助事業を受け発足、すでに八年目を迎えている。現在は自主運営だが、ソーラン将棋など十のサークル制を導入、子どもの実行委員会が企画し運営もするなど、子どもの主体性を大切にす活動が認められ、今回の事例報告となった。これまで広場を支えてきたスタッフやボランティアにとつては誇らしく嬉しい事である。それぞれの団体が、地域性を活かし魅力ある活動を展開されており、とても参考になったが、その活動には無理な面もある。ただ共通して言えることは、大人は安全管理と方向性を示し、時には意図的に子どもの自主性を促し、手を出し過ぎないという事。そして、広場を支える地域の絆が、さらなる地域の活性化に繋がっていくという事を確信した。

### 中央公民館 チャレンジ教室(高学年)

久住山登山

十月の第五土曜日、(三十一日)に、久住山登山にチャレンジしました。今年度は、新型インフルエンザの影響で、子ども九名、保護者四名、希望者一名、指導者十名の二十四名の参加となりました。

十月の第五土曜日、(三十一日)に、久住山登山にチャレンジしました。今年度は、新型インフルエンザの影響で、子ども九名、保護者四名、希望者一名、指導者十名の二十四名の参加となりました。



十時一四分 扇ヶ鼻の別れ  
十時五十分 避難小屋着  
十一時五分 避難小屋発  
十一時四五分 頂上  
十二時二五分 下山  
十三時三十分 扇ヶ鼻の別れ  
十四時二九分 沓掛着  
十四時四八分 牧ノ戸登山口着  
十五時 牧ノ戸登山口発

山でした。残念ながら山の上方の紅葉は赤色が少なく、時期的に遅かったようでした。今回の予定は、六時二十分 集合  
六時四十分 出発  
八時三十分 牧ノ戸登山口  
八時四五分 登山開始

天候は快晴で、真つ青な青空のもと気持ちのいい登山となりました。従来利用していた九重観光ホテルでは、今回、イベントが行われるため、やまなみ牧場にある「まきはの温泉館」に入りました。温泉の後、やまなみ牧場の売店でおみやげなどを買い、九重ICより大分道へ入り、十七時五分に何事もなく、中央公民館に帰ってきました。